

研究名 クロウン病術後吻合部潰瘍に関する後方視的多施設研究

クロウン病外科手術後の再発率は高く、術後早期から吻合部付近に潰瘍が発生するとされています。一方、吻合線上に発生する吻合部潰瘍については再発と取るべきか否か、その意義が明らかとなっておりません。そこで、クロウン病術後の吻合部観察症例を集積し、本邦における吻合部潰瘍の現状を把握することで、吻合部潰瘍が再発病変であるか否か、また治療介入が必要あるのか等、一定の見解を得ることが本研究の目的です。2008年～2013年までの間に当院で腸管切除が行われたクロウン病患者を対象として、診療録から個人を特定できない形式で、術前検査所見、手術所見、手術後経過、内視鏡所見などの情報を用いた調査、研究を行っております。診療情報の使用を希望されない方や、ご不明な点がございましたら、大腸肛門外科（高橋賢一）にご連絡下さい。